

平成22年度秋の叙勲・褒章受章者

11月3日に叙勲及び褒章受章者が発表され、当会から以下の方々
が叙勲・褒章の栄に浴されました。
心よりお慶び申し上げます。

叙勲者の横顔



瑞宝小綬章 (通産行政事務功労)

た なか やす ひろ
田 中 康 博

学歴・職歴

昭和 39 年東海大学工学部電気工学科 卒業、
昭和 39 年特許庁入庁
昭和 43～53 年 審査官
昭和 53～54 年 審判官
昭和 54～59 年 審査官
昭和 59～62 年 審査長
昭和 62～平成 3 年 審判長
平成 4 年 特許庁退官
(現在) 田中康博特許事務所

弁理士会歴

平成 4 年弁理士登録 (10260 号)

受章に浴して

この度は、叙勲の栄に浴することができ、身に余る光栄に存じます。

これもひとえに、先輩、同僚、後輩の皆様方の温かいご支援、ご指導の賜物であると深く感謝致しております。また、今回の受章に際し、日本弁理士会を始め弁理士関係の多くの団体からご丁寧なる祝意を頂き、誠にありがとうございました。

特許庁入庁から退官までの 28 年余りの大部分を、第 2 次大戦後の日本の産業及び経済の高度成長に寄与したコンピューター、その応用技術及びエレクトロニクス等の先端技術分野の審査、審判業務に従事できたことは、幸運でありましたが、一方で処理能力以上の出願及び審判の件数による滞貨問題に直面し、職員一体となって創意工夫しつつその解消に努めました。

そして、退官後の弁理士業務においては、理解し易い明細書の作成及び出願の厳選を心掛けております。

この度の叙勲を励みに、今後も一弁理士として精進するつもりでおりますので、よろしく願いいたします。



瑞宝小綬章 (通産行政事務功労)

さ さ き さだ お
佐々木 定 雄

学歴・職歴

昭和 39 年東海大学工学部応用理学科 卒業,
昭和 39 年特許庁入庁
昭和 43 ~ 45 年 審査官
昭和 45 ~ 46 年 英国バーミンガム大学留学
昭和 46 ~ 53 年 審査官
昭和 49 ~ 51 年 科学技術庁原子力局併任出向
昭和 53 ~ 58 年 審判官
昭和 58 ~ 61 年 審査長
昭和 61 ~ 62 年 審判長
昭和 62 ~ 平成 2 年 裁判所調査官 (東京地方裁判所)
平成 3 ~ 4 年 審判部部門長
平成 4 ~ 5 年 審査第二部首席審査長
平成 5 年 特許庁退官
(現在) 伊東国際特許事務所

弁理士会歴

平成 5 年弁理士登録 (10377 号)

公 職

昭和 61 年 5 月 ~ 昭和 61 年 12 月, 平成 2 年 12 月 ~ 平成 3 年 12 月 弁理士審査会
臨時審査委員, 平成 4 年 1 月 ~ 平成 4 年 4 月 弁理士審査会審査委員

受章に浴して

この度、叙勲の榮に浴し、身に余る光榮に存じます。

これも、皆様方のご指導、ご支援の賜であると深く感謝しております。そして、この度の受章に際し、弁理士会会長をはじめ多くの皆様から祝意を頂き、誠にありがとうございました。

特許庁に昭和 39 年に入庁し、平成 5 年に退職するまでの間、特許審査・審判業務及び裁判所調査官業務と貴重な経験をさせていただきました。先達が累々と築き上げた伝統ある産業財産制度を支える業務に長年に亘り携わることができ、その結果として、このような榮譽に浴することができましたことは、まさに幸運であったと思わざるを得ません。伝達式当日は緊張の一日でしたが、天皇陛下拝謁を終えて、感動した妻の様子を見てこれまでかけた苦勞に少しは報いることができたのではと改めてこの度の受章に感謝した次第です。

庁退職後は弁理士として弁理士会に御世話になり、すでに 17 年余が経過しましたが、これまでの経験を活かし、もう少しの間、弁理士会の発展のための微力を尽くしたいと思っています。これまでと同様によろしく願いいたします。



瑞宝小綬章 (通産行政事務功労)

うぶ かた かず お
産 形 和 央

学歴・職歴

昭和 38 年東京理科大学理学部化学科 卒業
昭和 38 年特許庁入庁
昭和 42～51 年 審査官
昭和 42～44 年 人事院に出向
昭和 51～52 年 審判官
昭和 52～54 年 審査官
昭和 54～56 年 審判官
昭和 56～平成元年 審査長
平成元年～7 年 審判長
平成 7 年 特許庁退官
(現在) うぶかた特許事務所

弁理士会歴

平成 7 年弁理士登録 (10670 号)
平成 11～12 年 情報企画委員会 副委員長
平成 13～14 年 知的財産支援センター運営委員 (部長)
平成 15～16 年 特許委員会 副委員長
平成 22～ 選挙管理委員会 副委員長

受章に浴して

このたびの受章に際して各方面の方々から思い出深いご祝詞を頂きありがとうございました。今まで各委員会で皆様と活動をさせていただいておりますが、これからもよろしく願いいたします。

ところで、日本は産業構造の変革の真ただ中におり、しかも経済成長が思うに任せず、経済成長の要因の資本と労働の寄与分の増加が望めないことから、技術進歩の寄与分をいかに増やすかに関心が集まっています。ただ、研究開発の場も企業活動のグローバル化や経済的背景から海外に移転し始めるなどの現象が生じているため、中小企業ベンチャーを元気にして経済を活性化しようとしています。これまた決め手に欠け、うまくいっていないのが現状ではないでしょうか。これらの問題を解決するために弁理士の活動に注目が集まっているという現実の中で、弁理士には、技術経営、研究開発への参画的アドバイス、知財の戦略的思考などの各方面のさらに深化した知識・スキルが必要とされると思われます。このためには、IPBA などでの各種スキル・知識などのさらなる向上・習得が必要不可欠でしょうから、このような機会に皆様とともに勉強できたらと思っております。



瑞宝小綬章 (通産行政事務功労)

おか だ みのる
岡 田 稔

学歴・職歴

昭和 39 年中央大学商学部経営会計科 卒業,
昭和 34 年特許庁入庁
昭和 47 ~ 58 年 審査官
昭和 59 ~ 60 年 日本特許情報機構に出向
昭和 60 ~ 62 年 審判官
昭和 62 ~ 64 年 審査官
昭和 64 ~ 平成 2 年 審判官
平成 2 ~ 5 年 審査長
平成 5 ~ 7 年 審査第一部商標課長
平成 7 ~ 8 年 審判長
平成 8 年 特許庁退官
(現在) 曾我特許事務所

弁理士会歴

平成 8 年弁理士登録 (10871 号)

受章に浴して

この度は、叙勲の栄に浴し、身に余る光栄です。
これは、長年にわたって公私ともにご指導、ご支援を頂いた皆様のおかげと心より御礼申し上げます。
今後も微力ながら弁理士として精進する所存です。何卒宜しくお願い申し上げます。